

第349回
株式会社テレビ新潟放送網
放送番組審議会

- 1 開催日時 平成30年6月25日(月)午前11時00分より
- 2 開催場所 テレビ新潟 会議室
- 3 委員総数 8人 出席委員 7人

出席委員

豊口 協	委員長	若杉 隆平	副委員長
中島慎一郎	委員	野内 隆裕	委員
大久保千春	委員	田村 明子	委員
柳川かおり	委員		

会社側出席者

取締役会長	室川 治久
代表取締役社長	務台 昭彦
常務取締役 編成担当	竹石 尚史
取締役報道制作局長	永田 広道
編成局長兼番組審議会事務局長	増子 隆
報道制作局制作部長	羽田 朗
報道制作局合評番組担当ディレクター	須山 司
事務局	山崎 学 吉田 康宏

4 議 題

1) 番組合評

「華をつないで 市山流と古町芸妓の伝承」

[放送：平成 30 年 5 月 26 日(土)10:30-11:25]

(説明：番組担当ディレクター 須山 司)

2) 会社報告

① 5 月の視聴者の意見 (報告：番組審議会事務局)

② 講じた措置、公表など定例報告等 (報告：番組審議会事務局)

3) その他

5 審議の概要

会社側からは、古町の花柳界を今までもニュースの特集や番組として取り上げてきた。昨年も「社員は芸妓」という古町芸妓を取り上げた番組を制作したが、その後の動きと現状に着目しながら、今回「市山流」という日本舞踊の流派の襲名披露という節目とまもなく新潟開港 150 周年という節目に、新潟の魅力のひとつとして古町花柳界を発信していきたいという想いを込めて 1 年間取材してきたものをまとめ上げて番組を制作した、という説明があった。

(委員の意見)

- ほとんど知らない古町芸妓や花柳界という世界の話だったので、番組を見ながら学んでいくような新鮮な気持ちで興味深く見る事が出来た。
- 番組序盤で紹介されていた踊りの経験もない新人の芸妓さんが芸妓の世界に入ってきたということ自体が驚きで、どのような理由で芸妓になろうと思ったのか知りたかった。

- 見終わった時に花柳界や古町芸妓自体の全体像がイメージしにくかった。市山流と柳都振興の関係が分かりづらかった。
- 番組としても面白かったが、古町芸妓の記録としても有意義な番組だと思った。
- 番組タイトル、ナレーションも番組内容に合っていたと思う。古町の映像も古き良き時代を残している感じが出ていて良かった。
- 「市山流の伝承」「新人芸妓の初舞台」「うしろ面の継承」といういくつかのテーマが盛り込まれていたが、どれを中心に見ればよいのか散漫になってしまったのではないか。節目ということであれば、「市山流」をバランス的に多めに構成した方が良かったと思う。
- 市山流の七代目以降の後継者という課題が取り上げられていなかった。
- 市山流と柳都振興を通じて港町新潟をうまく紹介できていた。今まで丁寧に取材をしてきたことが分かった。
- 番組を見た人が自分たちに何が出来るのかということ気付かせてくれることを分かりやすく描いていたと思う。
- 「華をつないで」というタイトルが歴史・文化をつないでいくということが良く表現できていたと思う。
- 小中学生に古町芸妓を学んでもらえるような機会が設けられれば良いのではないかと感じる内容だった。
- 新潟が持っている歴史文化を広く県内外に発信するという視点では重要な意味を持った番組だと思った。
- 英語版等作成し、外国人にも見せたいと思わせる内容だったが、その際はもっとコンパクトに短めの方が良いと思う。

6 会社側の報告

1) 放送番組に関して申し出のあった意見の概要

5月 …… 79件

2) 訂正放送、取り消し放送の実施状況

前回審議会(平成30年5月28日)から、昨日(平成30年6月24日)まで、総務省に届け出た訂正放送、取り消し放送はありませんでした。

7 審議機関の答申または意見(前回審議会)に対してとった措置

1) 前回第348回審議会では、「夕方ワイド新潟一番 ガタSPOコーナー」を審議いただきました。

委員の意見は議事概要にて記者制作スタッフ、社内に周知しました。

2) 番組審議会議事録を全社員・スタッフに回覧しました。

8 今回の第349回放送番組審議会の公表

1) テレビ新潟本社、長岡支社、上越支社の県内事業所に議事概要の書面を準備しています。

2) 当社のニュースで審議会の概要を放送します。

3) TeNYホームページに議事概要を掲載します。

9 参考事項(委員への配布資料)

- ・5月の視聴者からの意見、問合せ等の集計表
- ・民間放送新聞(6/3、6/13号)

以上